

9. 消費生活技術分野における
国際標準化アクションプラン

1. 分野の全体概要・最近の動向

消費生活技術分野は、住宅用設備機器、家具、繊維製品、石鹼・洗剤、台所・食卓用品、ガス・石油燃焼機器、事務用品、運動用具、履物、自転車、人間工学などの消費生活に密着した工業製品を対象として標準化を推進している。これらの工業製品に係る標準化では、近年、高齢者・障害者配慮、消費者保護、省エネルギー及び環境配慮が重要なテーマになっており、国際標準化においても積極的に取り組んで行くこととする。

2. 重点 TC の選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

（1）重点 TC の選出

消費生活分野から重点分野を選定するに当たっては、高齢者・障害者配慮、消費者保護、省エネルギー、環境配慮等、消費者に関連の深い社会ニーズへの対応の観点から、わが国発の国際標準化又はわが国の立場の反映が必要な分野について選定することとした。

TC122(包装)及び TC159(人間工学)においては、我が国をはじめとする先進国の急激な高齢化を背景に、包装・容器の識別表示、電子機器の報知音など、消費者の関心の高い高齢者・障害者配慮の国際標準化が我が国主導で推進されていることから、TC122(包装)及び TC159(人間工学)を重点分野と位置づけることにした。TC38 (繊維)においては、家庭洗濯・乾燥方法、洗濯絵表示等に関する国際標準化の見直しが進められてきているが、我が国は家庭用品品質表示法により国際整合化 JIS に規定する洗濯絵表示等の表示義務づけを行っている。家庭洗濯・乾燥方法は、それぞれの国の生活環境・習慣によって大きく異なるため、洗濯絵表示等の国際規格には我が国のそれらを反映させ、我が国の消費者に適切な製品情報の提供を行うといった消費者保護の視点が極めて重要であり、このような観点から TC38 (繊維)を重点分野とした。

消費者にとって生活環境下での健康・安全を確保し快適な生活を営むことが近年ますます重大な関心事になっている。TC61/SC6/WG(抗菌試験方法)においては、消費者が抗菌効果を確認し抗菌効果の無い粗悪品の流通に対応するため、我が国主導で抗菌試験方法に関する国際規格の制定を目指している。また、TC10/WG18(筆記具)においても、我が国が開発した画期的なゲルインキボールペン（油性ボールペンの書き味の重さ及び水性ボールペンのインキ漏れを解消）に関する国際標準化を我が国主導で推進している。このような消費者の健康・安全の確保、快適な生活の提供といった消費者保護の観点から TC61/SC6/WG(抗菌試験方法) 及び TC10/WG18(筆記具)を重点分野とした。

なお、TC91(界面活性剤)においては、ここ数年議長が不在のため活動が停滞していたが、昨年日本が議長を引き受け、規格の全面的見直しに着手している。この TC は消費者保護、環境保全等の観点から今後我が国から積極的に対応すべき分野と考えられるため重点分野とすることにした。

（2）国際標準化戦略

【ISO/TC159（人間工学）】

高齢者・障害者配慮の国際標準化については、日本で開発した高齢者・障害者配慮

設計を基礎として、アジア地域の特性を考慮し、消費生活製品に関するアクセシブルデザインの国際標準化を中国・韓国と共同で推進していくことにより、グローバルな規模での高齢者・障害者配慮社会の推進に寄与する。

また、2004年に日本が事務局となって国際ワークショップ協定会議を開催した、アニメーションなどの映像から受ける心理的、肉体的な被害から視聴者を守るための映像の生体安全性評価の標準化に関して、2006年は TC159/SC4 の下に SG (Study Group) が設置され、日本が主査を引き受けて映像の生体安全性に関するガイドラインの国際戦略をまとめているところである。今後は、規格原案を提案する方向で活動する。

【ISO/TC122 (包装)】

2006年に日本が議長及び幹事国に就任した。国内では高齢社会を前提にアクセシブルデザインに配慮した製品づくりが普及しており、包装・容器の分野での識別表示も数多い。使用者の利便性向上のためには無秩序な増加は却って使用者の誤認を招くことになる。国際的に商品が流通する現状を踏まえ、この分野での JIS 制定の経験を活かして国際規格提案を行っていく。

【ISO/TC38 (繊維)】

ISO 規格と商標権との関係、ISO ケアラベルと日本の家庭用品品質表示法との関係に照らして、グローバルな視点での全体的な見直し検討に積極的に参加する。

【ISO/TC91 (界面活性剤)】

ここ数年議長不在（以前はイラン）で活動が停滞していた。昨年日本が議長となり活動を再開し、全77規格中73規格が2007年6月までの定期見直し対象となっている。規格見直しを機会に、日本はこの分野の国際規格の問題点等を正確に把握し、適切に対処する。

【ISO/TC10/WG18 (筆記具)】

筆記具の分野においては廉価な海外からの輸入品にシェアを奪われることが国内産業の衰退につながっていたが、我が国主導で国際標準を制定し、日本が先行して開発した付加価値のある製品の国際市場における粗悪品流入の排除を引き続き行う。2006年はゲルインキボールペンの製品規格の提案という目標が達せられた。日本が主査を引き受けてプロジェクトをリードしており、2007年はDIS投票を控え、引き続き積極的に活動する。

【ISO/TC61/SC6/WG7 (抗菌試験方法)】

2006年は抗菌加工製品の抗菌性試験方法をDISとする目標が達せられた。今後は、ISO における議論の展開次第では、菌に関する規格を提案していくとともに、当該プロジェクトを主体的にすすめていく。

3. 重点 TC の活動状況

(1) 対象としている TC/SC/WG 番号及び名称

6. (1) に示す。

(2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向

【ISO/TC159 (人間工学)】(高齢者・障害者支援分野から再掲)

2006年は、SC5(物理環境の人間工学)に新規にWG5(特別な配慮を必要とする人々のための環境)が立ち上げられ、日本が事務局と主査を務めることとなった。

【ISO/TC122 (包装)】(高齢者・障害者支援分野から再掲)

イランとのツィニング方式によって、我が国が幹事国に就任するとともに、議長を務めることとなった。当面、NWIPに関する案件は我が国が、定期見直しに関する案件はイランが担当する。2年ぶりにTC総会が2006年10月にアトランタで開催された。新規事業項目として今後、アクセシブルデザインなどに取り組む予定である。

【ISO/TC38 (繊維)】

ア) TC38は、総会が2005年11月28日~12月1日にブラジル・サンパウロで開催され、ISO 3758(取扱い表示記号・ケアラベル)規格及びISO 6330(家庭洗濯乾燥試験方法)改正WGの具体的な立ち上げ等重要議題が審議された(我が国からは4名が参加。)

イ) TC38/-/WG22では、JISをベースに繊維混用率化学分析法及び繊維鑑別法を提案し、採用の方向で討議が進んでいる。

ウ) SC1(染色堅ろう度試験方法)では、染色堅ろう度試験方法規格の見直し・改正及び新規規格開発のプロジェクトを実施している。

エ) SC2(洗濯、仕上げ及び防水試験方法)では、ISO 3758取扱い表示記号・ケアラベルの改正委員会WG12及びISO 6330家庭洗濯乾燥試験方法の改正委員会WG3/PT1が2006年6月に正式に発足し、初回の国際会議がスウェーデン・ストックホルムで開催された(我が国から3名参加。)。第2回会議は2007年1月に東京で開催された。

オ) SC23(繊維及びより糸の試験方法)では、NWIP(NP2062 Textiles -- Yarns from packages -- Determination of single-end breaking force and elongation at break)が提出され、2007年に具体的な審議が開始される予定。また、人造繊維・合成繊維の一般名称規格の改正に関わるNWIPも提出される予定。

カ) SC24(繊維生地のコンディショニング雰囲気と物理試験)では、試験試料の調湿・調湿及び試験室の雰囲気に関する規格ISO139の改正NWIPの審議が開始される。

【ISO/TC91 (界面活性剤)】

ここ数年、活動が停滞していたが、我が国が主導で規格の見直しを行っていく。

【ISO/TC10/WG18（筆記具）】

2007年4月頃、ISO/CD 27668-1 Gel ink ball pens and refills -- Part 1: General use が CD 投票にかけられ、2007年8月頃、ISO/CD 27668-2 Gel ink ball pens and refills -- Part 2: Documentary use と ISO/CD 27668-1 Gel ink ball pens and refills -- Part 1: General use が DIS 投票に掛けられる予定。

【ISO/TC61/SC6/WG7（抗菌試験方法）】

2001年に制定された JIS Z2801（抗菌加工製品－抗菌性試験方法・抗菌効果）を基に、日本が2004年に国際規格提案した IS/DIS 22196 Plastics -- Measurement of the antibacterial activity of plastic surfaces が、2007年に FDIS 投票に掛けられる予定。

4. 我が国の活動実績（2006年）

【ISO/TC159（人間工学）】（高齢者・障害者支援分野から再掲）

（1）全体概要

ISO/IEC ガイド71の運用を促進するために背景情報となる人体特性に関するデータをTRとして取りまとめる、日本人の人体計測データ提供により欧州だけのデータによる規格化の方向に歯止めをかけるべく働きかけるなど、人間工学分野において貢献している。また、映像の生体安全性については、SC4の下に設置されたSGをリードし国際標準化戦略をまとめている。

（2）活動実績

①新規提案数：1件

②国際会議：

参加実績：延べ90名

日本での開催実績：10月11～14日に SC1/WG1 および SC1/WG2 会議を東京で開催。11月8日に SC5/WG5 の設立第1回会議を福岡で開催。

③幹事国・議長等引受実績

- ・ SC 幹事国：1
- ・ SC 議長：1
- ・ WG 主査：3

【ISO/TC122（包装）】（高齢者・障害者支援分野から再掲）

（1）全体概要

東北アジア標準化セミナーから発足した「日中韓アクセシブルデザイン委員会」において、包装容器に係わる JIS を紹介し、日中韓の共同で国際提案を行うことを確認した。また、中国、韓国以外のアジア各国に対し、アクセシブルデザインに関して広く情報発信を行い、提案予定の国際規格について協力を求めた。

（2）活動実績

①新規提案数：0件

②国際会議：

参加実績：2006年10月 TC122 総会 3名

日本での開催実績：なし

③幹事国・議長等引受実績

- ・ 幹事国：1
- ・ 議長：1
- ・ プロジェクトリーダー：2

【ISO/TC38（繊維）】

（1）全体概要

TC38/SC2 において、日本が提案しプロジェクトリーダーを務めた ISO 7770（縫目外観評価方法）は、2006年に発行された。TC38/WG23 は日本が主査を務め、我が国提案の新規規格 ISO 20743（抗菌加工繊維製品の抗菌性試験方法）の DIS 投票を終えて FDIS として登録され、2007年8月に IS として発行される予定。

また、日本が主査を務めている TC38/SC1/WG3 については、窒素酸化物標準染色布作成のためのインターラボ・国際実験を進めている。

主要なプロジェクトにはエキスパート登録し、積極的に参画、対応している。

（2）活動実績

①新規提案数：4件

②国際会議：

参加実績：7名

日本での開催実績：TC38/SC2/WG12、同 WG3/PT1 及び TC38/-/WG22 の3つの国際会議を2007年1月15日から18日の4日間、東京で開催。

③幹事国・議長等引受実績

- ・ WG 主査：2
- ・ プロジェクトリーダー：1

【ISO/TC91（界面活性剤）】

（1）全体概要

事務局からの見直し対象規格2件の照会に対し、規格内容を確認し回答した。

（2）活動実績

①新規提案数：0件

②国際会議：

議長として、幹事国イランと打合せ1回

③幹事国・議長等引受実績

- ・ 議長：1

【ISO/TC10/WG18（筆記具）】

（1）全体概要

2006年は日本からゲルインキボールペンの規格、ISO/CD 27668-1 Gel ink ball

pens and refills -- Part 1: General use、ISO/CD 27668-2 Gel ink ball pens and refills -- Part 2: Documentary use を提案し、WD、CD となった。水性ボールペンも日本が開発した製品であり、日本主導で平成 10 年に国際規格 ISO 14145 として発行した。その制定には 10 年を要したが、海外の工業会との関係構築により、ゲルインキボールペンの規格制定作業は比較的順調に進んできている。

(2) 活動実績

- ①新規提案数：2 件
- ②国際会議：参加実績：4 名
- ③幹事国・議長等引受実績
 - ・ WG 主査：1

【ISO/TC61/SC6/WG7 (抗菌試験方法)】

(1) 全体概要

2006 年は、日本が 2004 年に国際規格提案しプロジェクトリーダーを務めた IS/DIS 22196 Plastics -- Measurement of the antibacterial activity of plastic surfaces の DIS 投票を前に米国等からのコメントに適切に対応し、DIS 投票においては全員一致で採択された。この規格は、2007 年に FDIS 投票にかけられる。

(2) 活動実績

- ①新規提案数：0 件
- ②国際会議：
 - 参加実績：5 名
 - 日本での開催実績：2006 年 9 月 18 日～21 日、ISO/TC61/SC6 の年次大会を横浜で開催。
- ③幹事国・議長等引受実績
 - ・ プロジェクトリーダー：1

5. 我が国の活動計画 (2007 年)

【ISO/TC159 (人間工学)】(高齢者・障害者支援分野から再掲)

(1) 全体概要

2007 年に、SC4 (人間とシステムのインタラクション)、SC5 (物理的環境の人間工学) に対し、

「JIS S0011 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の凸記号表示」

「JIS S0013 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音」

「JIS S0014 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活製品の報知音－妨害音及び聴覚の加齢変化を考慮した音圧レベル」

「JIS S0031 高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－年代別相対輝度の求め方及び光の評価方法」

を基に国際規格提案を行う。

(2) 新規提案予定件数：4 件

(3) 幹事国等引受予定件数：0 件

【ISO/TC122（包装）】（高齢者・障害者支援分野から再掲）

（１）全体概要

日中韓の共同で国際提案を行うことを確認した「高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器」について、NWIPとして提案し、幹事国及び議長として積極的に討議を進める。そのために、当該提案に係わるWGを新設する。また、引き続き、日中韓の枠組みによる国際標準化を推進するとともに、中国、韓国以外のアジア各国に対し、アクセシブルデザインに関して広く情報発信を行い、協力を求める。

（２）新規提案予定件数：１件

（３）幹事国等引受予定件数：WG主査１名

「高齢者・障害者配慮設計指針－包装・容器」を担当するWGの主査、事務局などを引受ける予定。

【ISO/TC38（繊維）】

（１）全体概要

2007年7月にSC1及びSC2の総会（3年ごと）がアメリカで開催され、染色堅ろう度（SC1）、ケアラベル、家庭洗濯乾燥試験方法（SC2）等懸案の重要規格の改正が審議され、大筋の方向性が合意される見通しである。また11月に2年ごとのTC38総会がインドで開催される。

ア）ISO 3758（ケアラベル）改正にかかるWD（作業原案）の第2次修正（まえがき、適用範囲、漂白記号、絵表示記号の配列数、附属書B等）とCD（委員会原案）の作成を行う。

イ）ISO 6330（家庭洗濯乾燥試験方法）改正に関しては、日本の洗濯乾燥機、洗剤による洗濯乾燥試験方法C法を提案し、規格に追加する。このため日本の洗濯操作方法・条件を実地に試験し、確定する。

（２）新規提案予定件数：０件

（３）幹事国等引受予定件数：TC38の幹事国引受予定（中国とTwinning予定）

【ISO/TC91（界面活性剤）】

（１）全体概要

ISO2870 Surface active agents -- Detergents -- Determination of anionic-active matter hydrolyzable and non-hydrolyzable under acid conditionsが改正されることとなっており、CENの測定法（EN規格）を採用すべきとの意見が出されている。JISとの整合性や新たな測定機器調達負担等の観点から、日本の意向を反映させる必要がある。また、2006年日本が議長に就任したことを機会に、TCの活性化を図るべく国内審議委員会も議長をサポートする。その一貫として平成20年、TC91会議を日本（東京）で開催する予定。

（２）新規提案予定件数：０件

（３）幹事国等引受予定件数：無

【ISO/TC10/WG18（筆記具）】

（１）全体概要

日本は WG18 の主査として、ISO/CD 27668-1 Gel ink ball pens and refills -- Part 1: General use と ISO/CD 27668-2 Gel ink ball pens and refills -- Part 2: Documentary use を、国際規格とするために質問国への対応等の活動を行う。

（２）新規提案予定件数：０件

（３）幹事国等引受予定件数：無

【ISO/TC61/SC6/WG7（抗菌試験方法）】

（１）全体概要

２００７年は IS/DIS 22196 Plastics -- Measurement of the antibacterial activity of plastic surfaces が FDIS 投票にかけられる予定であり、日本はプロジェクトリーダーとして引き続きフォローしていく。

（２）新規提案予定件数：０件

（３）幹事国等引受予定件数：無

参考資料集

(1) 消費生活技術分野の ISO/TC/SC 及び WG の活動状況及び重点分野

TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加 地位	国内審議 団体	幹事 国	日本 議長	日本主査	重点 分野
10		18	筆記具	P	日本筆記具工業会			○	◎
22	2	3	ブレーキ液及び 関連材料	P	(社)自動車技術 会				
36		5	フィルム、電子 インターフェー ス技術	P	(社)日本映画テ レビ技術協会				
38			繊維	P	(社)繊維評価技 術協議会	英国		/-/WG23 ○ /1/WG3 ○	◎
61	6	7	抗菌試験方法	P	日本プラスチック 工業連盟				◎
63			ガラス容器	O	(社)日本硝子製 品工業会	英国			
83			スポーツ用品及 びレジャー用品	O	(社)日本スポー ツ用品工業協会	ドイ ツ			
87			コルク	O	全国コルク同業会	ポル トガ ル			
91			界面活性剤	P	日本石鹼洗剤工業 会	イラ ン	○		◎
116			暖房装置	O	(社)日本ガス石 油機器工業会	—			
120			皮革	O	日本皮革技術協会	イン ド			
122			包装	P	(社)日本包装技 術協会	イラ ン、 日本	○		◎
133			衣料品のサイズ システムと表示	P	(社)繊維評価技 術協議会	南ア フリ カ			
136			家具	P	(社)日本オフィ ス家具協会	ス ウェ ー デン			
137			靴の寸法、名称 及び表示	O	日本靴工業会 日本ゴム履物協会 足と靴の健康協議 会	南ア フリ カ			

TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加 地位	国内審議団体	幹事 国	日本 議長	日本主査	重点 分野
148			ミシン	P	(社) 日本縫製機械工業会	ドイツ			
149			自転車	P	(財) 自転車産業振興協会	スペイン			
159			人間工学	P	日本人間工学会	ドイツ		/-/WG2 ○ /4/WG1 ○ /5/WG5 ○	◎
	3					日本	○		
161			熱発生装置の制御及び安全装置	P	(社) 日本ガス石油機器工業会	ドイツ			
166			食卓用陶磁器・ガラス器	P	日本陶業連盟	米国			
172	7		眼鏡光学及び関連機器	P	日本医用光学機器工業会	ドイツ			
174			ジュエリー	P	(社) 日本ジュエリー協会	ドイツ			
181			おもちゃの安全性	P	(社) 日本玩具協会	デンマーク			
186			刃物類及び金属製卓上用・装飾用容器	×	(財) 日本規格協会	英国			
216			履物	O	全日本履物団体協議会	スペイン			
217			化粧品	P	日本化粧品工業連合会	イラン			
219			床敷物	P	(社) 繊維評価技術協議会 建築・住宅国際機構	英国			

注1) 重点分野には◎印

注2) 日本議長、主査には○印

注3) Pメンバー 業務に積極的に参加し、会議に出席する。TC/SC 内の全ての事案への投票義務を負う。
Oメンバー オブザーバーとして参加。文書の配布を受け、コメントの提出と出席の権利を持つ。

消費生活技術分野計

TC 数	SC 数	WG 数		幹事	議長	主査
22	20	95	日本引き受け数	2	3	6

(2) 2006年活動実績データ

①提案規格数 新規2件、改正7件

TC	SC	WG	規格名称	新規・改正の別
10		18	Gel ink ball pens and refills -- Part 1: General use	
10		18	Gel ink ball pens and refills -- Part 2: Documentary use	
38	1	3	Revision of ISO 105-G01:Tests for colour fastness Part G01: Colour fastness to nitrogen oxides	▲
38		22	Revision of ISO 1833 series: Quantitative chemical analysis Part :24 Mixtures of polyester and some other fibres (method using phenol and tetrachloroethane)	▲
38	2	3	Revision of ISO 6330: Domestic washing and drying procedures	▲
38		22	Fibre Identification	
159	4	2	Ergonomics on human-system interaction – Part 308: Surface-Conduction Electron-Emitter Displays (SED)	

注) 改正は▲印

②国際会議実績

a) 参加実績 51回 延べ149人

b) 日本での開催実績

TC	SC	WG	開催地	開催期間
61	6		横浜	2006/9/18~9/21
91			東京	2006/5/18
159	1	1	東京	2006/10/11~10/14
159	1	2		
159	5	5	福岡	2006/11/8
161			東京	2006/10/26

③幹事国・議長等引受実績

TC	SC	WG	幹事・議長・主査の別
10		18	主査
38		23	主査
38	1	3	主査
91			議長
122			幹事・議長
159		2	主査
159	3		幹事・議長
159	3	5	主査
159	5	5	主査

